

星 座 と 星 の 名

星座とは天球上の区画であり、あらゆる天体は 88 個のどこかの星座に属しています。最大面積を持つうみへび座は頭はこいぬ座のプロキオン付近から、尾はてんびん座の近くまで延びています。しかしその割には星数は少なく α 星のアルファルドという名は孤独という意味だそうです。一方最小の星座はみなみじゅうじ座で、1 等星が 2 つもありよく目立つ星座です。夏のはくちょう座、冬のオリオン座などは子供の頃から親しんでいる星座で、夜空を見上げれば誰もが気付くでしょうが、実は見たことも聞いたこともない星座が大多数です。北半球の星座には神話伝説上の人物・動物が多く、また南半球のものには航海に関したものが多数あります。星座名は日本語では漢字を使わず、英語では Ori (オリオン), Cyg (はくちょう), Sco(さそり)のように 3 文字で表す習慣になっています。

星座の考案者はバビロニアの羊飼いたちと言われていますが、ヘレニズム時代にアレキサンドリアのプトレマイオスが 48 個に設定し、16 世紀の大航海時代以降、南天の星座が加わりました。個数も境界も乱立していましたが、1928 年の国際天文連合総会において現在のように決まりました。それ以前、とも座・らしんばん座・りゅうこつ座・ほ座を広大なアルゴ座が統合していたことは有名ですが、ねこ座、となかい座などもあったそうです。黄道上にはおひつじ座・おうし座、ふたご座。かに座、しし座、おとめ座、てんびん座、さそり座、へびつかい座、いて座、やぎ座、みずがめ座、うお座の 13 個の星座があり、星占いで使われる時より 1 個多いのは、この時に境界線が変わったためです。また歳差のためギリシアローマ時代にはアルゴ座、ケンタウルス座など春の南天の星々がよく見えていたので星座物語の中に残っています。

面積順ベスト 5

順位	星座名	略号	主な天体
1	うみへび座	Hya	アルファルド
2	おとめ座	Vir	スピカ おとめ座銀河団
3	おおぐま座	UMa	北斗七星
4	くじら座	Cet	ミラ
5	ヘルクレス座	Her	M13

星の固有名はアルファルド、アルゴル、アルタイル、アルデバラン、ベガ、デネブなどアラビア語から来たものが多数あります。明るい星に限られ、通常はバイエル名ま

たはフラムスチード番号を使います。ドイツのバイエル（1572－1625）は各星座の星に明るい順にギリシア文字を α , β , γ , δ ・・・と当てました。しかしオリオン座（ α ：ベテルギウス β ：リゲル）やふたご座（ α ：カストル β ：ポルックス）など順序が逆転している場合もあります。当然暗い星までにはおよびません。バイエル名が恒星以外に使われている例として球状星団ケンタウルス座 ω があります。またアンドロメダ座 α 星(＝ペガサス座 δ 星)や おうし座 β 星(＝ぎょしゃ座 γ 星)のように 同一の星に重複してバイエル名が付けられたこともあります。現在（ ）内の名前は使われていません。グリニッジ天文台の初代台長フラムスチード（1646－1718）は各星座ごとに赤経順（西から東へ）に番号を付けました。全天で一番明るい星シリウスはバイエル名では「 α CMa」，フラムスチード番号では「9 CMa」となります。

星座の物語は現在では子供向きに書き換えられていますが、もとはずいぶん怖い物語が多く、その中に古の人々の宇宙観を見ることができます。次ページより下記の本を参考にして、ギリシア神話の中の代表的な星座のお話を紹介しましょう。ただし随所に筆者の偏見とこだわりが入り交じっています。

「ギリシア・ローマ神話」 ブルフィンチ著，野上弥生子訳・・・岩波文庫

「星座」 原恵，林完次共著・・・小学館

「星と星座」 「学習」「科学」増刊・・・学研

「星百科大事典」 バーナム著，斉田博訳・・・地人書館